日本臨床麻酔学会第28回大会パネルディスカッション

「IV PCA・持続注入法による術後鎮痛」によせて

山本　健[*1]　齊藤洋司[*2]

安全かつ有効な術後鎮痛は外科手術を受ける患者にとって福音であり，患者満足度を高めるうえで重要な要素である．麻酔科医の長年にわたる努力によって，局所麻酔薬や麻薬を使用した硬膜外鎮痛法あるいは静脈内鎮痛法が術後鎮痛の主役となり，さらにpatient controlled analgesia(PCA)の登場によって，患者自身が鎮痛薬の投与時期を決めることのできる時代が到来した．一方，深部静脈血栓症を防止するための抗凝固療法の普及は，周術期に深部静脈血栓症を起こしやすい整形外科，産科，腹部外科などの術後鎮痛法を一変させた．具体的には，抗凝固療法による出血が重大な合併症につながる硬膜外鎮痛法から，そのおそれのない静脈内鎮痛法への急速な移行が起こっている．

本特集は，今後使用頻度が高まることが確実な静脈内鎮痛法を中心に，日本臨床麻酔学会第28回大会(京都)で開催されたパネルディスカッション「IV PCA・持続注入法による術後鎮痛」を再構成したものである．横山正尚先生には，IV PCAの概説とご自身が実践しておられるモルヒネによるIV PCAの実際をまとめていただいた．長田理先生には，フェンタニルを用いたIV PCAについて，薬物動態シミュレーションに基づいた投与方法と，ディスポーザブル型シリンジポンプを使った簡便な実施方法についてまとめていただいた．いずれの論文も，麻酔科医に有用な実践的な知識が満載されている．大塚みき子先生と飯田豊先生には，非麻薬性鎮痛薬による術後鎮痛法をご紹介いただいた．非麻薬性鎮痛薬が主流の病棟スタッフに受け入れられやすい鎮痛方法と考えられる．横山先生と大塚先生の論文では，IV PCAの副作用のなかでも対処が難しい嘔気・嘔吐に関して，ドロペリドールやトラベルミン®の使用について述べられており，一読をお勧めする．

[*1]金沢大学医学系麻酔・蘇生学
[*2]島根大学医学部麻酔科学講座

著者連絡先　山本　健
〒920-8641　金沢市宝町13-1
金沢大学医学系麻酔・蘇生学